

佳作

伝統文化を消滅させないために

山形県酒田市立第四中学校

3年 五十嵐 健

「君は貴重な後継者なんだ」

そう言われたとき僕は、この問題はとても深刻なことなんだと気付いた。僕の住む地域には黒森歌舞伎という約280年前から受け継がれてきた貴重な農村歌舞伎がある。山形県指定文化財無形民俗文化財にもなっている。この黒森歌舞伎は黒森地区に住んでいる人々によって作られた妻堂連中という一座で受け継がれてきた。そんな農村歌舞伎を小学2年生の頃に親の影響で始めた。入る前は親がやっているところや兄がやっていたところを見ていて歌舞伎ってこんなにも面白いんだと思い、早く自分もやってみたいと思っていた。入ってからは、優しく教えてくれる黒森の人たちに囲まれ楽しくやっている。

しかし、黒森歌舞伎は現在大きな問題に直面している。最近少子高齢化という言葉をニュースや新聞でよく目にする。少子高齢化とは、年々子どもの数が減少し高齢化が進むということだ。実際に、僕の中学校では1学年5クラスだったのだが、ここ数年で1学年4クラスに減った。その少子高齢化が伝統文化の継承にも影響を与えている。継承者の数が減り、伝統文化が消滅してしまう可能性が高くなっているのだ。さらに継承者だけでなく指導する方も高齢で、教えることができずに高度な技術が継承したくても継承できないパターンもある。歌舞伎を教える人のことを振者というが、最高齢は80歳を超えている。黒森で行われる春祭りでは、新人が歌舞伎を披露することになっているが、後継者が少なく人数が少ない演目しかできない。そのためここ数年は、毎年同じものを披露している。振者も高齢であり教えることができず十分な練習ができるのが現状だ。そのせいで、残るはずだった貴重な伝統文化もなくなってしまうと思うと胸が苦しくなる。せっかく受け継いできたのにもったいないという気持ちになる。

僕は少しでもこの伝統文化を守るために魅力を知ってもらう方法を考えた。まずは、SNSの活用だ。地域公演を行っているものの、認知度は高くない。だから、SNSなどたくさんの人々の目にとまりやすい方法でPRしていきたい。たくさん的人々に黒森歌舞伎の存在を知ってもらい、興味を持ってもらいたい。また、ワークショップにもチャレンジしたいと思っている。さまざまな地域で歌舞伎の化粧や衣装を着てもらいたい。実際に体験することで楽しさを知ってもらえるはずだ。ワークショップは、観る人と役者の交流にもつながると思う。

今年の演目は、加賀見山旧錦紅だ。主に女形を中心の演目だ。約21年ぶりの公演になる。この演目はお家騒動の加賀騒動と草履打事件をモチーフとした演目だ。主な登場人物は尾上、岩瀬、お初の3人だ。岩藤は、女中の総監督だ。大姫という役が大切にしていた旭の尊像を巡り、岩藤と尾上とお初が対立していくのが物語のあらすじだ。毎年演目を決める太夫振舞という行事がある。この行事は、選ばれた人が1週間肉や卵など、決められた食べ物を食べず、冷水を7杯半浴び、体を清める。そして、ますの中に入った番号が書いてある紙を釣り上げ、その番号の演目が次の年の演目になる。何百とある演目の中から三つを厳選して、その中の一つが選ばれる。その役目を今年は、僕の兄が務めることになった。とても大事な役目なので真剣に取りくんでいた。しっかりと役目を果たそうと約束を守っていた。次の年は僕が受け継ぐ予定だ。だから、昔の人の教えをしっかりと守りたい。

先人たちから受け取ったバトンを次の世代へつなげるためには、新たな試みが必要だ。僕は、後継者としてこのバトンを守るためにチャレンジし続けたい。黒森歌舞伎が100年後にも受け継がれるように。